

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋建築環境性能評価システム2016 | 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)名古屋市中村区名駅5丁目PJ新築工事	階数	地上13F
建設地	愛知県名古屋市中村区名駅5丁目 201,202,203	構造	S造
用途地域	商業地域	平均居住人員	1,000 人
地域区分	6地域	年間使用時間	5,110 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,物販店,工場,等	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年9月 予定	評価の実施日	2021年11月8日
敷地面積	1,788 m ²	作成者	
建築面積	1,405 m ²	確認日	
延床面積	17,181 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

= BEE1.5

★:S:★★★★★ A:★★★★★ B+:★★★★ B:★★★ C:★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO2排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q のスコア = 3.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.8

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.4

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.7

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合	ニューノーマルを見据えたオフィス空間の計画を目指したオフィスビルとしている。良好な室内空間の確保とともに省エネを追求し環境に優しいオフィスビルとしている。	
その他	特に無し	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
内装材は全てF☆☆☆☆以上かつ他VOCについても放散量が少ない建材を使用。昼光の積極利用を図り、ライトシェルフおよびハイサイドライトを計画した。また、昼光センサーにて室内照明制御をし、日中の照明消費電力の低減を図っている。	ニューノーマルを見据えたオフィス空間の計画とし、感染症対策や自然エネルギーの利用など快適かつ省エネルギーな執務空間とした。	敷地内に緑地を設け、中木を植樹等良好な温熱環境に配慮した。またベンチを設け、植名板を設置し建物利用者などの憩いの空間となるよう計画した。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
LED照明設備を採用し設備システムの効率化を図った。	躯体と仕上げ材が容易に分別可能、再利用できるユニット部材を採用するなど、部材の再利用向上に取り組んでいる。また節水型機器や自動水栓の採用による資源の有効利用に努めている。	適切な量の駐輪・駐車スペースを確保するとともに、導入路への配慮等交通負荷抑制に努めている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)名古屋市中村区名駅5丁目PJ新築工事

- 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2
- 評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				2.8
LR1	エネルギー	2.7	0.4	/
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.5	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				2.9
Q3.1	生物環境の保全と創出	3.0	0.095358465	/
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009535846	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.047679232	
3. 循環型社会				3.7
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	/
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.9	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.7	0.01875	

結果

1. 温暖化対策	評価点 = 2.8	
2. 自然共生	評価点 = 2.9	
3. 循環型社会	評価点 = 3.7	

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。